



千葉大学医学部同窓会報 第132号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元みのはな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 みののはな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1 千葉大学医学部内 みののはな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : idosokai@med.m.chiba-u.ac.jp

新春によせて 渡辺 武(昭27)

「新しい年号は、平成」と当時の故小淵官房長官が提示されてから15年も経ちました。全く早いものです。しかし少しも平成の時はありませんでした。新春に明るい展望をと望みながら、年を追うごとに質の違った激動の年を迎えております。中身の見えない、声だけの構造改革というお経に洗脳されて、この国は何処へ行くのでしょうか。正義の味方・グローバルゼーションを錦の御旗にして、本家のアメリカで失敗した市場原理主義を実験されてはたまりません。聖域なき医療特区構想など強者の論理で100兆円もの医療産業が、話題となっています。患者様なる接遇言葉がはやりだしました。言葉は患者さんへ、顔は株主に向いています。さて21世紀の医学・歯学教育の改善方策(高久史磨教授座長)が13年3月に発表されました。高度医学医療の進展に伴う医療情報・インフォームド・コンセントのために従来からの専門医中心、大学中心の医師養成では、国民参加の医療に応

えられなくなってきました。提言の大きな目標は、プライマリ・ケア医の養成にあります。プライマリ・ケアなる言葉は今でこそ流行語となり、日常語となってきましたが、まだ適当な日本語訳は見つかりません。丁度オリンピックという日本語訳がないのと同じです。専門医の前提としての初期医療といった単純な、狭いものではありません。私は千葉県医師会会長に就任した昭和63年から10年間、また引き続き日本プライマリ・ケア学会会長として現在まで、毎年1回衛生学教室の非常勤講師として共感する全人的医療をめぐる90分講義をしております。開業医家庭の学生が少ないのがプライマリ・ケアへの不安が強く、昨年は要望にこたえて課外授業的に数回膝を交え懇親会を開き、またメーリングリストを通じて意見の交換もしました。昨年9月に厚生労働省から医師養成ガイドラインが出ましたが、机上の計画が示されただけで、全国363の二次医療圏のなかで中核病院さえないところが49%も

あります。具体的な内容は全くありません。これもお経と同じです。昨年秋には明るいニュースとしてノーベル賞の発表がありました。しかしその価値を認識するだけの権威と実力が、日本になかったとは情けないこと。おめがねに止まらなかつたとしてもあながち淋しが

ることもないかと思っております。最後になりましたが、号を追うごとに同窓会報がますます充実してきたことは喜ばしいことです。千葉大学校友会という同窓会が誕生しましたが、関与の方向性が今後とも問題となりましょう。編集の方々のご苦労に感謝しております。

第4回みののはな同窓会学外研究助成決定 2002年度みののはな同窓会学外研究助成は次の6名に決定しました。 赤倉功一郎(東京厚生年金病院、泌尿器科学、千葉大昭59) 「前立腺癌における無作為系統的な前立腺生検所見の意義：手術療法、放射線療法、内分泌療法後の予後因子としての有用性」 大島 龍男(千葉県袖ヶ浦福祉センター、精神医学、千葉大昭60) 「児童虐待」 甲原 玄秋(千葉県こども病院、小児歯科・口腔外科学、東京歯大昭50) 「小児悪性腫瘍治療後の歯の形成障害について」 黒木 春郎(社団永津会齋藤病院、小児科学、千葉大昭59) 「小児の common diseases に対する洋漢統合医療」 佐藤 悟郎(安房医師会病院、消化器病学、千葉大昭59) 「安房地区における12年間の長期検診調査にもとづくC型肝炎の疫学と健康管理検診についての研究」 仁平 武(水戸済生会総合病院、消化器病学、金沢大昭58) 「造影 Fusion 三次元超音波による肝胆道腫瘍悪性腫瘍診断法の確立と臨床応用」

最終講義のご案内 猪鼻奨学会の現況 みののはな同窓会賞募集要項 2面 附属病院ニュース 3面 教授就任挨拶 3面 ノーベル賞の驚異 5面 ーグッティンゲン 5面 追悼文 6面 回想録 7面 同窓会員著書の紹介 7面 人事異動 9面 クラス会 10面 各地のみのはな会だより 12面 みののはな美術展開催 オクダレクチュアーシップの設立 14面 千葉醫學専門學校校歌 14面 同窓会館の現況 15面 常任理事会議事録 エッセー 16面

みののはな同窓会賞 受賞候補者募集 第8回(二〇〇三年度)みののはな同窓会賞の受賞候補者を募集しています。詳細は2面をご覧ください。

みののはな同窓会総会の御案内 日時 平成15年6月21日(土) 午後3時より 場所 銀座アスターお茶の水賓館

★安達恵美子 教授 日時 平成15年2月6日(木) 午後3時 場所 医学部附属病院 第一講堂(3階) 演題 「君のひとみに乾杯」 ★大和田英美 教授 日時 平成15年2月7日(金) 午後3時30分 場所 医学部附属病院 第一講堂(3階) 演題 「肺癌の病理」 ★木内 政寛 教授 日時 平成15年2月13日(木) 午後3時30分 場所 医学部附属病院 第一講堂(3階) 演題 「法医学の実際と研究」

紙面紹介 猪鼻奨学会の現況 2面 みののはな同窓会賞募集要項 2面 附属病院ニュース 3面 教授就任挨拶 3面 ノーベル賞の驚異 5面 ーグッティンゲン 5面 追悼文 6面 回想録 7面 同窓会員著書の紹介 7面 人事異動 9面 クラス会 10面 各地のみのはな会だより 12面 みののはな美術展開催 オクダレクチュアーシップの設立 14面 千葉醫學専門學校校歌 14面 同窓会館の現況 15面 常任理事会議事録 エッセー 16面

猪鼻奨学会の現況

— 苦難の時代の到来 —

猪鼻奨学会会長 近藤 洋一郎

新年を迎え謹んでゐるのは同窓会の各位にご挨拶を申し上げます。

さて、このたびのほな同窓会報編集部のお計らいにより、私の関係してあります猪鼻奨学会(以下奨学会)の現況について詳しくお話しさせて頂く機会を与えられました。本奨学会の歴史は私共の2000年度会報で奥井勝二先生が解説されているところによれば、三輪徳寛先生(初代千葉医学専門学校・千葉医科大学学長)の在職25周年を記念して集められた浄財を、当初の銅像設立計画に代えて先生自身のご意向により苦学生のための奨学金へと転用されたことにその端を発するとのことでありませぬ。以来学生奨学金の貸与、研究補助金の贈呈、教育・研究にかかわる事業への援助等着実な活動を80有余年に亘り続けてまいりました。

本奨学会の運営は三輪先生以来の基礎財産から得られる預金利子と、各方面からの寄付金を二本の柱としてこれまでなされておりました。年々の寄付金の組入れによって基本財産は増加し、現在数千万円規模に達しております。また利子収入はこれまで安定し、奨学会の運営を円滑ならしめるのみならず「運用財産」という形で手許に備えておくことが可能でありました。かくして奨学会は300万円前後の予算を余裕をもって計上してまいりました。しかしバブル経済の破綻によって預金金利は急落の一途をたどり、奨学会は収入面で甚大な被害を蒙りました。付表は平成年度の収支の一覧ですが、平成元々3年度300万円を越えた利子収入は13年にはわずかに十数万円へと激減しております。堅実でゆるぎないものとして思われた奨学会の基盤がこのためにもろくも崩れ、付表に見るごとく平成4年度より構造的な赤字体質に転落いたしました。もう一方の柱である寄付金も最近の経済状況の反映もあり減少の傾向が明らかであります。

平成元年度よりの収支及び資産増減比較表

	収入	支出	資産増減額	寄付金	利息収入
平成元年度	8,678,777	3,345,834	3,590,754	3,400,000	3,186,777
平成2年度	7,291,922	4,526,900	3,098,222	2,500,000	4,305,522
平成3年度	8,395,721	5,032,024	2,707,297	2,700,000	4,932,481
平成4年度	5,146,919	4,930,404	-3,218,648	800,000	3,227,319
平成5年度	5,720,403	4,605,077	-154,674	1,800,000	2,340,403
平成6年度	4,554,528	4,184,509	-551,981	2,000,000	1,623,528
平成7年度	4,150,942	4,175,697	-394,775	2,750,000	1,012,942
平成8年度	2,496,819	4,134,320	-1,975,501	1,700,000	458,819
平成9年度	3,770,762	4,710,509	-792,147	3,200,000	261,762
平成10年度	2,966,498	3,755,779	-341,681	2,496,320	470,178
平成11年度	3,318,848	2,776,262	+542,586	2,970,500	348,348
平成12年度	3,290,303	3,010,503	-720,200	2,100,000	181,303
平成13年度	1,654,209	2,748,707	-1,106,498	1,510,000	144,209

所有しております。ここには先輩のご努力で杉の植林がなされ、将来実り豊かな奨学会の財産として成長することが期待されております。しかし上述の経済的苦境から年々の手入れもままならず、荒地化しつつあり処分してもこれまでの出費に見合う収入を得られない

かどうか定かでありませぬ。加えて本年の台風による倒木によって近隣に被害を生じその補償に腐心するなど、この土地が今や重荷ともなっております。これまで概観いたしましたきわめて厳しい環境条件によって、奨学会の運用財産もここ一、二年で底をつ

き、基本財産の取り崩しによる運営を迫られるというかつてない事態が目前に近づいております。奨学会理事会ではこの危機的状況を回避するための討議がなされてきましたが、有効な手だてを講ずるに至っておりません。研究補助金等の減額、項目・件数の見直しな

ど奨学会活動の根幹にかかわる論議もありましたが、まずは存亡の岐路に立つ奨学会の現在の窮状を広く関係各位、とりわけのほな同窓会会員の皆様へ訴え、一層のご理解を頂くことに努めるべきであるとの見解が示され、ここに小文を草した次第であります。さま

ざまな機会、例えば各種の集会、祝賀会、記念行事、退官、あるいは節目となるクラス会等に際して、各位が本奨学会の財政的支援につき具体的にお考え頂ければと念じております。なお奨学会のこれからのあり方につき適切なご助言を頂ければ幸いに存じます。

るのほな同窓会賞

受賞候補者募集要項

第8回(二〇〇三年度)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。

一、受賞対象者

①学術賞 本会員(甲および乙)で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。特に学外の教育研究診療機関に居られる方と、学内では学位取得直後の層からの応募を歓迎いたします。

二、表彰

①学術賞 (五件以内) 楯および副賞(総額二百五十万円程度)を贈呈します。
②功労賞 (三件以内) 楯および薄謝を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇〇三年1月7日から3月5日までの間に申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇〇三年5月中頃までに各申請者に通知すると共に、るのほな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内 るのほな同窓会事務室
るのほな同窓会賞規定については131号をご覧下さい。

附属病院二ユース

病院長 伊藤 晴夫 (昭39)

平成14年8月7日～9日

一日看護体験の実施

この看護体験は、卒業見込みの看護学生を対象に毎年実施しているものである。本年度は、実施期間中北は北海道、南は沖縄まで全国各地から多くの学生が参加した。

参加者はオリエンテーションの後、希望の病棟へ配置され、先輩看護師と行動を共にし、多くの看護業務を体験した。

平成14年8月9日

国立大学附属病院長会議 常置委員会と論説委員等との懇談会

常置委員会と各新聞社・NHKの論説委員・解説委員との懇談会が都市センターホテルで開催された。国立大学病院は、国立大学法人化問題、医療制度改革、卒後臨床研修必修化問題などのほか、マネジメント改革の推進という大きな問題を抱え、各大学とも鋭意努力していることを説明した。論説委員・解説委員から種々なご意見を頂き有意義な会であった。

平成14年9月2日

地震防災訓練及びドクターヘリによる患者搬送訓練

千葉大学医学部附属病院では、年2回防災訓練を実施している。9月2日に地震災害を想定した訓練が行われた。特に今回は、日本医科大学付属北総病院の協力を得て、地域の主要救急医療機関・災害拠点病院として広域且つ早急に対応できるように、ドクターヘリによる患者搬送訓練もあわせて実施した。

平成14年9月30日～10月1日

医療事故に関する行政評価・監視

医療事故の発生を防止する観点から、①行政及び医療機関の取組状況、②医療従事者養成機関における教育の実施状況、③医薬品、医療用具に係る安全確保の推進状況等について千葉行政評価事務所の職員が来院し調査が行われた。

平成14年10月7日

第二回関連病院懇談会の開催

30施設の関連病院院長等の

参加を得て行われた。平成16年度から実施される卒後臨床研修必修化に向けて、①千葉大学関連施設ないし千葉県における卒後臨床研修必修化の制度設計、②千葉大学医学部附属病院の対応と研修協力病院との関係について活発な意見交換が行われた。

平成14年10月10日

ボランティア感謝状贈呈式

本院でボランティア活動に従事されている方々に対する感謝状の贈呈式が行われ、病院長から、日頃の活動に対してねぎらいの言葉が述べられた。今年度表彰された方々は、ボランティアとしての活動時間が100時間以上の方が8名、200時間以上の方が5名、500時間以上の方が1名であった。

平成14年10月25日

平成14年度「医療事故防止のための相互チェック」の実施について

この相互チェックは事故防止・安全管理体制を相互に検証することを目的として平成12年度から実施されている。全国を5ブロックに分け、ブロック内の国立大学病院間に合同評価チームを編成し、これを他の病

院に派遣している。本年度は、群馬大学及び山梨大学の関係職員が来院し検証作業が行われた。

平成14年10月25日

院内コンサートの開催

今回はプロジャズピアノストの大原 保人氏によるピアノの演奏が行われ、楽しい一時を過ごした。

平成14年10月29日

千葉大学工学連携プロジェクト シンポジウム

「21世紀の新しい医療の創生―工学連携への期待―」午前中には本学における研究の紹介がなされた。午後には本学のフロンティアメディカル工学研究開発センターについての概要説明、ならびに先端研究を推進している3名の招待講演者による研究の現状についての講演が行われた。

平成14年11月7日

臨床研修に関する省令等に関する意見の提出

国立大学病院長会議常置委員会よりのコメントを常置委員長伊藤晴夫千葉大学病院長他3名で厚生労働省に提出し、質疑応答を行った。主な意見は臨床研修病院について、研修プログラムのついて、研修医の処遇

について、臨床研修制度の運用についてであった。

平成14年11月9日～17日

看護職員の海外研修

千葉大学医学部附属病院では、本年度も看護職員による海外研修を実施した。この研修は、諸外国の先進的な医療と看護技術を視察し、その成果を本院に反映させることを目的として実施するものである。本年度は、米国ロサンゼルス市のUCLAメディカルセンター等へ6名を派遣した。

平成14年11月13日

医療機関立ち入り検査の実施

厚生労働省、千葉県、千葉市保健所による医療監視が行われた。監査内容は安全管理全般に関する実施計画および実施状況等についてであった。医師の定期健康診断受診率が低いことが指摘された。

平成14年11月20日

保険診療特別講演会の開催

保険診療の質的向上と適正な処理を図ることを目的とし、千葉社会保険事務局指導医療官の佐々木徳秀氏(昭41)をお招きし、保険診療に関する特別講演会を

6月12日に引き続き開催した。会場には、溢れんばかりの医療スタッフが出席し、医療保険をめぐる状況や保

険診療・請求のルール等の内容に熱心に聞き入り、終了後には活発な質疑応答が行われた。

教授就任挨拶

耳鼻咽喉科学教室

岡本美孝 (秋田大昭54)



本年10月1日付けで、山梨医科大学耳鼻咽喉科より転任して参りました。また、赴任して1ヶ月ですが、長く輝かしい歴史を持つ千葉大学耳鼻咽喉科学教室の伝統の重みをひしひしと感じております。私は、山梨医科大学には6年余り在任いたしました。新設医科大学だけに充足されていないところもありましたが、反面新しいだけに斬新なところもありました。実は、10月1日に期せずして山梨医科大学は消滅、旧山梨大学と統合して新生山梨大学として生まれ変わっています。私も山梨医科大学での経験を少しでも踏まえながら、

伝統ある千葉大学の耳鼻咽喉科学教室に溶け込んで、大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学教室として、さらに飛躍する基を作ることが出来ますよう、切磋琢磨していきたくと考えています。

これまでの教室の中心テーマであります頭頸部腫瘍の治療、鼻アレルギーなど鼻科学研究の更なる発展を図ることは言うまでもありませんが、耳科学、音声言語学、上気道感染症など、広い耳鼻咽喉科学の領域の充実にも取り組んでいきたいと考えています。また、千葉大学も独立法人化を控え、研究体制の見直し、附属病院の経営改善が図られていますが、私自身も積極的に与っていきたく考えています。何卒、御指導、御鞭撻の程、よろしくお願致します。

公衆衛生学教室

羽 田

明 (熊本大昭53)



10月1日付けで、千葉大学大学院医学研究院(公衆衛生学)に転任しました。前任は旭川医科大学公衆衛生学講座です。ちょうど4年間、旭川医科大学でお世話になり、その間、大学内外、公衆衛生学講座同門、北海道および旭川市の行政など多くの方々のご支援を頂き、大変充実した日々を過ごさせて頂きました。また、旭川の自然、研究室から見える大雪山系、美味しい食べ物など本当に素晴らしいものでした。従って、最近まで旭川を離れることは全く考えていなかったのですが、突然、歯車が回り始め千葉に転任した次第です。しかし、これまで熊本大学医学部卒業以来、多くの職場をほぼ2年平均で移動してきましたので、それほど抵抗があったわけではありません。お聞きしましたところ、先代の安達先生、先々代の吉田先生も小児科のご出身だと言うことです

が、実は私も小児科医として卒業研修を始めました。小児科の研修は国立岡山病院ではじめ、神奈川県立こども医療センター遺伝科での臨床遺伝の研修、岡山を經由して西別府病院小児科勤務。熊本大学大学院医学研究科、ユタ大学ハワードヒューズ医学研究所、名古屋市立大学医学部生化学、北海道大学医学部公衆衛生、旭川医科大学公衆衛生と渡り歩いてきました。経歴をみると、なんと無節操など思われるかもしれませんが、私自身は小児、成人と対象がかわってもヒトの病気を遺伝要因の側から見ていく事に興味を持ち続けています。この間、研究手段はめざましい進歩を遂げて、当初は染色体解析しかなかったものが、大腸菌の力を借りた遺伝子解析、PCRを初めとする革新的な技術の導入、解析の自動化、ゲノムワイドの解析と進んできました。これからいよいよ実際の医療現場での応用に続き、すべての人々の健康増進に役立てることができると時代に突入している事を感じ、興奮を抑え切れません。

千葉大学での目標も、個人への遺伝情報、環境要因に依りて、疾病の発症を防ぐオーダーメイド健康管理法を確立することにおきたいと思っています。その為には多くの方々を助けていただく事が不可欠です。幸い千葉大学は総合大学ですので、他学部の方々の連携も容易ではないかと思っ

います。また、東京にも近く、共同研究も随分やりやすいと思います。これらのメリットを最大限に生かし、千葉大学のために少しでもお役に立てたらと考えています。いろいろご迷惑をかけることになるかもしれませんが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

東京医科歯科大学難治疾患研究所分子疫学

村 松 正 明 (昭57)



平成14年3月に東京医科歯科大学、難治疾患研究所分子疫学の教授に就任しました。栄養疫学で有名な田中平三先生(現国立健康栄養センター理事長)の後任です。教室の名称を疫学から分子疫学に変更しました。ヒトゲノム情報を取り入れた疫学研究を研究室の主なテーマとして標榜しようと考えているからです。私は昭和57年卒で、第一内科に入局し、研修医として1年間お世話になりました。多くの諸先輩方にはお

世話になり、大変に感謝致しております。その後、基礎医学の分野に進み、DNAX研究所(米国)、東京大学医科学研究所、そしてヘリックス研究所(かずさアカデミアパーク)と籍を転々として参りました。その間、大学を離れてアカデミックな医学研究を取り巻くいろいろな研究社会を経験することができました。ここ数年はヒトゲノム研究に携わり、DNAチップや一塩基多型(SNP)の研究をして参りました。ここま

戻ってみると、大学は独立行政法人化に向けての大きな変革期を迎えようとしています。産学連携が推進され、大学教員のベンチャー兼業が大幅に認められるようになりました。私も遺伝子解析のベンチャー企業、ヒュービットジェノミクス社の取締役を兼業させて頂いています。また任期制の導入が進み、教授になれば「あたり」というのは昔のものです。教授にも任期があり、再任時には業績評価が入る時代になります。新しいものを生み続ける、風通しの良い研究・教育環境を維持するためには、これらは大切なことだと思えます。

ヒトゲノムが解明されて、医学・創薬研究がますます面白い時代になってきました。このような時代に研究できることは幸せなことです。20年前に組み換えDNA技術とともに始まった分子生物学研究の成果を応用した分子標的薬がようやく少しずつ臨床現場に登場しはじめています。今後10年の間にゲノム医学、ゲノム創薬が進んで、そこから新しい診断法や治療法が生み出されていくことでしょう。私も微力ながら、そのような研究に今後も携わっ

て、少しでも貢献していきたいと思えます。どうか皆様方の御指導、御鞭撻をよろしくお願い致します。

熊本大学エイズ学研究中心予防開発分野

岡 田 誠 治 (自治医大昭60)

先生方が多くおられ、第一外科から派遣されていた先生方とはよく遊び、よく仕事をし、よく学んだ楽しい4年間でした。

自治医大の義務年限終了後基礎医学をこころざし、平成8年5月より医学部附属高次機能制御研究センター生体情報分野に助手として採用され、徳久剛史教授に師事することとなりました。教室では免疫学の基礎を学びながら、自身のテーマである転写因子による造血幹細胞の機能調節の仕事を始めました。教室は、遺伝子改変マウスを使って種々の転写因子の機能を解析しており、常に生体における遺伝子の生理・病理について考えながら研究をしております。臨床各科からの大学院生や留学生も多いことから、毎日新たな発見があり、楽しく研究させて頂いたと思います。また、基礎配属にきた医学部の学生さんからも多くの刺激を受けました。他教室との交流も盛んで、



平成14年9月1日より熊本大学エイズ学研究中心予防開発分野を担当させて頂いたことになりました。6年間の千葉大学在職中は、非常に多くの方々にお世話になりました。改めて御礼を申し上げます。特に、分化制御教室の徳久剛史教授、幡野雅彦助教授、関係諸先生方には常に暖かいご指導を賜り、深く感謝しております。

私は、昭和60年に自治医科大学を卒業後、茨城県において自治医科大学の義務である地域医療に従事致しました。初期研修の後、県西総合病院で当時の三宅和夫院長(現、名誉院長)・石田裕院長(現、副院長)のご指導のもと4年間内科医として勤務しました。県西総合病院は千葉大出身の

特に免疫発生・遺伝子制御・発生生物との合同研究発表会ではいつも活発な議論がなされ、非常に刺激を受けました。これらの交流の中から、非常に多くのことを学ばせていただきました。

また、平成9年に猪之鼻奨学会研究補助金と永井学術教育国際交流基金をいただき、平成12年にはるの同窓会学術賞を受賞しました。このような学内における奨学金制度は、若い研究者のモチベーションを高める意味で非常に意義のあるものであると考えます。今後の更なるご発展を祈念しております。

熊本大学エイズ学研究センター予防開発分野は、「HIV-1が感染しエイズを発症するモデルマウスを細胞工学及び遺伝子工学的手法を用いて作製し、これらのマウスを用いてエイズの病態解析とワクチン等の治療法の開発を行うこと」を目的に開設されました。そのために、より効率よくヒトの造血系・免疫系の構築が可能な免疫不全マウスを開発すると共に、造血系・免疫系についての基礎的な研究を継続して行ってまいります。これらの研究を通して、エイズ撲滅のみならず様々な血液疾患やウイルス

ス疾患・自己免疫病の病態解析と治療法の開発を目指し、広く臨床医学へ還元可能な研究に発展させていきたいと考えております。

随 想

ノーベル賞の驚異
— ゲッティンゲン

高野 光司 (昭33)

ストックホルムからみて、もっとも注目に値するヨーロッパの都市はゲッティンゲン(当時人口約5万、現在近郊を合併して12万人)であると、ノーベル賞選考委員が言ったとか。今年はノーベル賞百年祭で、ゲッティンゲンでも表題の展覧会が、194年に建立された歴史的な図書館筆跡部門で行なわれている。「ゲッティンゲン日報」によれば、ゲッティンゲンで学び、研究し、教えたたりした、ゲッティンゲンに強い縁のある受賞者数は44人であるという。

千葉大学で学んだものを元に、更に一層の努力を重ねる所存ですので、今後共にご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

その半分は、私にいわせればゲッティンゲン人である。たとえば、194年、受賞時英国籍マクス・ボルンは、ドイツ人として生まれ、今世紀初頭、ゲッティンゲン大学で大数学者、クライン、ヒルベルト、ミンコフスキーに数学を学び、博士号を取得、当大学で理論物理学の助手、講師を勤めた後、フランクフルト大学ベルリン大学で5年間教授、この時代の助手は43年物理学賞のシュテルンであった。1922年から33年までゲッティンゲンでハイゼンベルク、パウリ、フェルミ、ディラック、ゲッペアト・メイヤー、デルブリック等のノーベル賞受賞者を育てた。33年、ヒットラーに追放され、17年間エディンバラ大学で理論物理学教授、退官後ゲッティンゲン近郊に戻り、ゲッティン

ンゲン名誉市民、核武装反対の「ゲッティンゲン宣言」に署名、ゲッティンゲンで1970年死亡、ゲッティンゲン市営墓地に眠る。

クレープス・サイクルのクレープスは、ゲッティンゲンの北80km程のヒルデスハイム(2002年日本を巡回中のエジプト展はこの市の博物館所有)生まれ、わが医学部の学生であった。教養科目の物理では28年受賞のウインダウスに学ぶ。33年英国に移住。39年から英国籍。戦後ゲッティンゲン・アカデミー会員。ノーベル賞受賞は53年。1980年には当大学名誉博士号授与。この時の記念講演は私も聞いた。この有名な学者がまだ生きていたかと驚き、とても若く見たのでさらに驚いたが、翌年なくなられた。

ボルンの弟子の一人、マリア・ゲッペアト・メイヤーは、生粋のドイツ人、当大学小児科ゲッペアト教授のお嬢さん、アピトゥア、大

学はゲッティンゲン。ボルンのもとに留学していた米国人物理学者メイヤーと結婚。63年米国人として受賞。フェルミやミリカンのような純粋の外国人で、ゲッティンゲン大学で学び、研究して受賞の基礎を創った人も多い。

デバイはオランダ生まれだが、ドイツの諸大学で勉強し教授への道をたどり、1914年からゲッティンゲン教授、27年から35年までライプツィヒヒ大学、この時留學中の私の師、鈴木正夫教授が、彼の物理学の講義を聴いている。「デバイの講義はなにしろ朝の六時半から始まるのですからね」と先生からお聞きしたことがある。受賞は36年、45年からアメリカ国籍。

受賞者として、終戦直後にゲッティンゲンに来た人もいる。マクス・プランクとオットー・ハーンである。プランク家は彼の曾祖父の時代からゲッティンゲンに重きを置く家系だが、それはさておく。この二人はハイゼンベルクを加えて、カイザー・ウイルヘルム協会を再建して、今日のマクス・プランク協会とした。お二人ともゲッティンゲン市営墓地に眠っておられる。側

にはボルンや有機化学者ワルラッハ(1910年受賞)、静止電位、活動電位で医学生物の必ず学ぶ拡散の方程式のネルンスト(20年受賞)、結晶学のフォン・ラウエ(14年受賞)、少し離れてオーストリア人の化学者ジグモンディ(25年受賞)の墓もある。

若い教官、学生の多くを大戦で失い、ナチス政権による痛手はあまりにも大きかったが、大学は、誤爆による解剖学教室と展覧会場を大修理した他はほとんど無傷で、ドイツの大学では一番早く講義を再開した。マクス・プランク協会と共に、ゲッティンゲンは戦後のドイツ自然科学の中心であった。

ハイゼンベルクは、長らく、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の会長でもあった。78年7月、ハーンが危篤の頃だったが、フンボルト財団の招待で人形劇観劇の折り、先生の隣席についてお話しいただいたこともある。私は医学部入学前には原子物理学にここがれていた。私をドイツに留学させてくれたのはA・V・フンボルト財団であった。

19世紀、ガウスをはじめ、リーマン、ディリクレ、デキント等の大数学者を擁したゲッティンゲンは、20世紀の初頭から33年ナチスの政権奪取にいたる間は世界の数学の頂点に立っていた。日本からも、高木、正田など多数の優秀な数学者が留学した。もしノーベル賞に数学があればゲッティンゲンのノーベル賞の数は断然世界一であった。

なぜ数学がノーベル賞に含まれなかったかは、どうやら、1874年ゲッティンゲンで博士号をとった、ロシア生まれの19世紀最大の、女性数学者、のちにストックホルムで教授になった、ソフィア・コヴァレフスカヤが関係しているらしいが、正確には知らない。教えて下さる方があれば嬉しい。

1969年から始まった経済学賞には、ゲッティンゲン人はいない。もしゲッティンゲン数学最盛期のメンバーの一人、フォン・ノイマンが生きていたら第一回経済学賞を得ていたかもしれない。

私の目の黒いうちに、母校からもノーベル賞受賞者が出ないものだろうか。せめて受賞者候補として噂にのぼる人を出したいものだ。なに？ 私が無勉強だから知らないだけですって？ (エルベ、ドナウ河などの大洪水のニュースを聞きつつ。日本のノーベル賞の数は校正時には12名。万歳！)

るのほな同窓会への書附

白兔会 (昭17卒) 三万円

久野恒一君を偲ぶ

奥井勝二(昭28)



昭和38年千葉大学医学部卒業の茨城県協和町の協和中央病院理事長・参議院議員久野恒一君は去る平成14年10月17日国会議員宿舎で心臓発作を起し、救急車で慶応病院に搬送されたが、残念乍ら急逝された。去る11月17日協和町体育館で国

同窓生は数少ないと思われる。同君の履歴は左記の通りである。

久野恒一君との付き合いは医師国家試験合格後、数人の同級生と一緒に昭和39年第一外科に入局してからである。おとなしい性格、

履歴

- 昭和11年11月 東京都江戸川区で出生
- 38年3月 千葉大学医学部卒業
- 39年5月 千葉大学医学部第一外科入局
- 43年3月 千葉大学医学部大学院修了
- 44年4月 茨城県西病院外科就職
- 54年7月 協和中央病院開設
- 平成2年12月 茨城県会議員当選
- 10年7月 参議院議員当選
- 12年10月 参議院法務委員会理事
- 13年4月 参議院自民党国対委員長
- 13年9月 厚生労働大臣政務官就任
- 14年10月 退官
- 14年10月17日 逝去65歳
- 正五位勲三等旭日中綬賞叙勲

目だたない存在で、真面目な好青年という印象であった。大学院に進み小林龍男先生の薬理学教室で研究活動を行ない、同教室の諸先生に指導された。論文題名は「Phystostigmineおよび

Metaphetamine の中枢作用の電気生理学的解析」である。彼が脳外科に関心を示すようになったのは薬理学教室での研究によるものと思われる。また後年政治の畑に進む動機はご尊父益義様が戦後何度か茨城県から衆議員に立候補しており、当選できなかった意志を継いだものかと思われる。

昭和42年5月29日東京のホテル・ニューオータニで盛大な結婚式が小林先生の媒酌人で開かれ招待されたが、当時の日本相撲協会の力士、多くの政治家が参加したのも記憶に残っている。その後茨城県西病院外科に就職、三宅和夫院長に指導を受け、脳外科に関心を示し協和中央病院を開設し、茨城県西部の地域医療に専念した。次いで老健施設・リハビリセンター開設等順調に進展し医療と福祉を政治の面で見なおす意欲を示し、茨城県会議員・茨城地方区から参議院議員に当選し活躍した。時折お会いして各方面での活躍ぶりを拝聴し

ていた。最近も去る10月2日厚生労働省政務官室で元気な姿を拝見し、次回の選挙にも立候補する意欲を示していたが、その後間もなく他界された。誠に残念である。これまでに築き上げた医療施設は長男の貴俊君(医師)が継いでくれると思う。これまでの御交誼に感謝し、ご冥福を祈る。 合掌

佐藤研一先生を偲んで

丹沢秀樹(昭57)



千葉大学医学部歯科口腔外科前教授、千葉大学名誉教授 佐藤研一先生が平成14年9月24日に御逝去され、9月26日には通夜が、翌9月27日には葬儀が厳粛な中にもしめやかに行なわれま

代教授(名誉教授)佐藤伊吉先生であり、日本の口腔外科学分野の先駆者、立役者の一人として歯学事典に記されているほどの大教授でした。その薫陶を受け、教室からは東京大学、東京医科歯科大学、日本大学、東日本学園大学(現北海道医療大学)、などをはじめ、多くの教授・指導者が輩出しました。佐藤研一先生はその後継者として宿命付けられていたかのような人生を歩まれ、県立千葉高等学校、千葉大学医学部、東京医科歯科大学歯学部を卒業され、昭和54年8月から平成9年3月まで千葉大学医学部歯科口腔外科学講座を主宰されました。医療に

しては、口腔領域の悪性腫瘍を専門とされ、400人以上の口腔癌患者に対して生涯術後5年生存率70%以上と大変な好成績を残されまし

た。20時間余りの大手術でも先生は一貫して執刀されました。また、先生は口癖のように、「学問知識と実地臨床力の融合」を強調され、真に実力のある医学者とは如何にあるべきかを語られました。研究では腫瘍病理学を専門とされ、ラットやマウスの発癌実験を行い、さらに、口腔癌の遺伝子学的解析と臨床応用に道を拓かれ現在では世界的にも注目を集めています。特筆すべきは教育面です。家庭的な医局の中で、出身地、出身校、能力、価値観、さらに目的も異なった医局員をまとめ、叱咤激励して下さいました。先生のお人柄はとても自制的で思慮深く、「実直」という言葉そのものでした。先生は出張の際であっても同行者に鞆持ちもお許しにならず、教授室の掃除もご自分でされました。非常に控えめではありませんが粘り強く、教室と教室員を愛して下さいました。春には満開の亥鼻山でのお花見、4月の学会旅行、5月の同門会、6月の医局旅行、7月の暑気払、10月の学会旅行、11月の教室例会、12月の忘年会、仕事納め、正月のご自宅での新年会、そして年に数回あった医局や同門会のゴルフ、スキー、

野球やボーリングなどなど、多くの季節感にあふれた医局生活を思うと、少しのお酒で赤ら顔になり、冗談を仰しゃりながら医局員と肩を組んで語りつておられた先生のお姿が目には浮かびます。

先生のご冥福をお祈り申し上げますと共に、生前の皆様のご厚志に感謝申し上げます。私共医局員は先生のご遺志を継ぎ、一致協力して教室・大学、医学・医療の発展に尽くしていく所存です。

おくやみ

- 広瀬 喜一(大13)
- 穴倉 安衛(昭8)
- 仙波 武臣(昭9)
- 河村 謙二(昭12)
- 松永 幹(昭17)
- 山田 泰(昭20)
- 齊藤 敏孝(昭23)
- 関 哲三(昭23)
- 月岡 幸雄(昭24)
- 来馬 真一(昭26)
- 秋葉 擴(昭27)
- 重田 英夫(昭31)
- 副島 秀夫(東医大昭32)
- 佐久間映夫(昭35)
- 佐藤 研一(昭35)
- 久野 恒一(昭38)
- 小野 恒一(昭39)
- 土屋 美栄(昭40)
- 岡田 幸浩(昭40)
- 岡田 周市(昭57)

回 想 録 (3)

第三の人生へ
中 澤 弘 (昭31)

1990年は私にとって一大転機をもたらした年でした。58才、外科開業医として油も乗り、患者も、手術も文字通り最多忙の年でしたが、時折、自分の将来のことをしきりに考える様になり、果してこの儘で行くのかと悩みを感じていたのです。幸い三人の子供は良い配偶者を見付けて各自の人生に向けて出発し、その分、親としての負担も減少し楽になり始めました。偶々、近所にニューヨークの指圧学校を出て開業なさった方に誘われて週末のレッスンをとることにしました。始めは気休めの積もりでしたが、数人の若い人達と基礎から東洋医学を正式に学ぶチャンスが生まれました。私のいつもの好奇心で次第に深入りし始め、手当たり次第に本を漁り、今迄見向きもしなかった領域にのめりこんで行きました。これこそ余生を捧げてみようと思う程、心魅かる、思いでした。2年かかって全課程を修了し、州からライセンスが出ましたが、飽き足らずそのまま鍼の方へ自然に入っ

行ったのです。UCLAは、Joseph M. Helms という医師が始めた医師の為の鍼講座があり、アメリカで最も定評があります。私にも基礎が出来ていたせいか、ヘルムス教授に目をかけて戴き、卒業後は講師として、今度は鍼専門医として学びつつ、教えるという貴重な経験を行いました。アメリカは日本と違って、医師は正式に認可された鍼医学のコースを卒業しないと、州からライセンスがとれず鍼医開業は出来ません。そして今度は外科と鍼の二つを併行しての忙しい日々となり「一刀と一鍼を磨く」がそのモットーになりました。続けて行われた鍼認定医の試験も通り、私の血が沸くのでしょうか、アメリカン・アカデミーの理事、更には幹事に選ばれて行ったのです。日本医事新報 (No.4036、2001年9月1日号)に、私の書いた一文が、アメリカ鍼医学が市民権を得た歴史として載っておりますから御笑読下さい。扱ってそのアカデミー (American Academy of Medical Acupuncture) は、鍼医師だけの会で、今会員約200名、始まった15年前はヘルムス以下数人の侍だけだったのですから、アメリカ医師の鍼への関心の程が伺えるでしょう。年1回のシンポジウムには40名位出席して、4日間、新しい分野について勉強しています。「温故知新」「古為今用」、先人の残した偉大な遺産を改めて見直し、次の世代の為に佳い仕事を残していく気概が見受けられます。扱って2年前にはアメリカ鍼認定医学会 (American Board of Medical Acupuncture) が発足し私はその会長に選出されました。ボード・メンバーになる為には専門医となって開業2年以上、500の症例、認定医試験合格者という特定者に限られ、今会員は267名になりました。私は身に余る光栄と苦勞を背負って何とかやって居ります。

今年には医学部入学50年目、渡米して45年、外科開業40年、鍼を学び始めて10年目と何か区切りを感じて回想をまとめてみる気になりました。「古稀壯心」ですが、今はだれもが心身注意すれば100迄生きられるのでしよう。ですから私も又ギアチェンジをして新しいことを始めるかも知れません。そして次の回想録を書かせて戴きたいと欲を張っています。

同 窓 会 員 著 書 の 紹 介

将基面誠 (昭37) 著

「無医村に花は微笑む」

澤田 勤也 (昭28)



眼下には200メートルもあろうかという千仞の谷、怒涛の波が切り立った巖に砕ける。遙か彼方に太平洋の水平線を見渡せる三陸海岸。ここは、将基面誠先生が19年間、村民と共に生きた田野畑村である。

「無医村に花は微笑む」副題「亡き妻が遺した花笑みの村での村医19年」(ごま書房)。先生は、昭和37年、本学医学部を卒業。産婦人科学教室、沼津市立病院、千葉県がんセンターを経て、昭和57年、岩手県下閉伊郡田野畑村で国保診療所及び保健センター、さらに健康福祉センター、特養

ホームの責任者として尽力することになる。村は盛岡から宮古を経て150キロ、陸中の深い谷を越え、春代夫人とご子息三人と共に赴く。赴任時、夫人の思わず口を吐いてた言葉は、「こんな遠い所に来たのかと思たら、なぜか涙がでてしまう。ただただ遠いというのが悲しい」だったという。ここで更に思わぬ険しい現実が直面する。夫人が「骨髄異形成症候群」に侵されていた。しかし、元来、草木の好きな夫人は、すぐ多くの村人の仲間に入り背中に籠を背負い喜々として山菜採りに出かけたりしている中に、村を梅の木で埋めようと村おこしに傾注していった。その夫人は、平成元年1月、45歳の若き生涯を閉じたのであった。葬儀の日、木更津の自宅に村長

初め村民200人が7台のバスを連ねて岩手の奥地からこられ、共に悲しみ共に祈りを捧げてくれた。いち度は村を去ることを決意した先生もこの情景に村民とのつよい絆に心を惹かれ、村に戻ることを決心したという。このことはやがて、吉村昭氏の小説「梅の蕾」となって世に紹介されることになった。

ここで、先生は、本書の舞台となった田野畑村と自分史に触れている。「田野畑」ならば文字通り田圃と野原と畑ばかりと想像。しかし陸中海岸は断崖が聳え北上山地特有の起伏が連なる山村、かつては「陸の孤島」といわれ、今でも盛岡から三時間。東京、盛岡間の新幹線より時間がかかる。でも田野畑の自然は厳しさと共に山海の珍味に恵まれ、山地酪農も根づいている。

先生は、ある時、岩手県庁に一通の手紙を送った。「医者がいなくて苦勞している所で働きたい。今の職場で問題を起して逃げこむのではありません。できれば海の見える所があれば」と。岩手を選んだのは、医局時代に「自分達で生命を守った村」(菊地武雄著、岩波新書)を読み、岩手県保健康文化章を受章した。保健衛生と社会福祉の分野で

に感動したからと述懐しておられる。そして、昭和56年暮れ、田野畑村の早野仙平村長に会う。彼は村民から絶大の信頼をうけている、熱血村長である。この時、村長は、「先生には人間を診てもらい、人間を生かすことを担当していただきたい」と懇請され、田野畑ゆきの決心は揺るぎないものになったと述べている。

また、本書の中で先生は医者になった原点を回顧している。終戦時、中国東北部(旧満州)から身も凍る辛苦の逃避行の中、強制収容所に入れられ、愛する幼き妹の死。このときこども心に医者であつたら妹を助けられたのにと強く心に刻みつけられたという。

田野畑村の医療、福祉活動は、大学や大病院の勤務とは異質の想像を超える数知れぬ苦悩と戸惑いの連続であつたようである。問診にも思わぬ苦勞があつたこと。

最終章に至って、岩手医大、石橋真澄教授の「民をして病ましむべからず、これまつりごと」が将基面先生の医療哲学になっていると推察した。先生は平成8年9月、第48回、栄えある保健文化章を受章した。保健衛生と社会福祉の分野で

優れた業績を挙げた団体、個人に贈られる第一生命の伝統ある賞である。終りに吉村昭氏の本書に寄せる言葉を拝借すれば、

遠山高史 著

「素朴に生きる人が残る」

主婦の友社
浅野 誠 (昭48)



「この作品は清爽の一語につきる。文章もすがすがしく、読み終えた後、ほのぼのとした思いにひたった」をもって結びとしたい。

日本酒製造のアルゴリズムは分析科学的要素還元主義の限界を示す例となるように思う。醸造酒は通常、糖化と発酵を分けた二段階で行われる。この場合アルコール濃度は16パーセント以上にはできない。二段階法で高いアルコール濃度を生むためには40パーセントもの糖分濃度が必要となるが、微生物はそこでは生きられないからである。しかし、日本酒のアルコール濃度は23パーセントにまで至る。日本酒は並行複発酵法という糖化と発酵を一つの方法の中で同時に行う方法で作られる。この方法は、樽という培地の中で麹と乳酸菌と酵母という性質の異なる

微生物を絶妙に制御することで、それほど濃い糖分溶液を必要とせずに高いアルコールの濃度の酒を作り出すことができる。しかも、原則的に化石エネルギーをまったく必要とせず、酒類の中で最も少量の水しか使用されないという優れた特徴を併せ持っている。しかし、この方法は分析的な方法によってではなく、厳しい修練と経験の積み重ねによって生み出されたものである。(日本酒以外はすべて2段階法で作られる。) 日本酒製造技術は顕微鏡も温度計もないパストールの生まれる三百年前にすでに確立されていた。だから、微生物学を知らない日本人が生んだ技術である。というより、私は知らないがゆえにできた技術であると思っている。

20世紀に著しい発展をした要素還元分析的な科学技術は、21世紀、大きな曲がり角にきていることを感じる人は少なくない。科学とはさほどにすばらしいものではないのではないか。おそらく、16パーセントの醸造酒から、大量の水と熱の使用により高濃度の蒸留酒を作る技術ではありえても、ほとんど環境を汚すことなく23パーセントの酒を造り出す技術とはなり得ないに違いない。人は科学的な方法によらず十分自然を認識し、制御し、クリエイティブでありえることも日本酒製造技術は示しているの

は、21世紀、大きな曲がり角にきていることを感じる人は少なくない。科学とはさほどにすばらしいものではないのではないか。おそらく、16パーセントの醸造酒から、大量の水と熱の使用により高濃度の蒸留酒を作る技術ではありえても、ほとんど環境を汚すことなく23パーセントの酒を造り出す技術とはなり得ないに違いない。人は科学的な方法によらず十分自然を認識し、制御し、クリエイティブでありえることも日本酒製造技術は示しているの

はないか。無論、この本は酒作りの解説書ではない。30年近く精神病の治療に携わってきたが、優れた治療薬の出現にもかかわらず、要素還元主義的な科学医療技術に時々違和感の様なものを感じてきた。そのような違和感をもとに書き連ねたエッセイ集である。かなり大胆過ぎる意見を書いてしまったかとの不安があったが、幸いにも、この本を読まれた方の中に違和感を唱える方はあまりおられなかったようであった。

山田 忍 著／長尾佳子 (昭34) 解説

「痴呆介護―家族の悩み相談室」

放送大学客員教授 竹中 星郎 (昭41)



この本はドクターにも、介護スタッフにもためになるが、待合室においておけば患者や家族が読みふけること請け合いです。痴呆高齢者が生活のなかでしめず症状と心理がQ&Aの形で詳しく記されている。痴呆が患者の立場でいきいき

と描かれている新しい痴呆学の教科書である。症状の医学的な説明と患者の心理についての記述は具体的で内容のレベルは高いが、文章は平明でわかりやすい。介護の第一線のスタッフや日常診療で患者を診たり家族と接する医師は「目から鱗が落ちる」思いのほずである。プラクティカルだが、マニュアルやハウツー本ではない。それは著者の一人である長尾先生が、現場のス

タッフや家族が「なにを求めているか」、そして医師や介護のプロは彼らに「なにを伝えればいいか」を熟知して、その視点が貫かれていくからである。長尾先生は高齢者医療の最前線で仕事をしながら、東京都の痴呆医療の担い手として保健婦や家族の相談を受けるだけでなく、家庭を訪問して診療したたくさん経験がある。それが本書の根幹だが、底流には精神科医として島崎敏樹先生のもとで学び、松沢病院での診療した経歴がある。そんな前宣伝はどうでもいい。読めばわかる。痴呆は多くの方がわかったつもりでいるが、本書を読めば新しい見方ができるようになる。本書の内容の一部を紹介すると、「気分がむらむら大きくなる」ことについて、「夕方になると家に帰るといいう」症状について、風呂を嫌がること、失禁など日常的な問題が、医学的な側面と生活の両面から詳しく記されている。そしてどう対応したらいいかが具体的に示されている。

もう一つの特徴は、家族のメンタルヘルスがきめ細かく記述されている点である。痴呆高齢者の診療やケアでは本人へのかかわりだ

けでなく、家族をささえることが大切である。家族がケアの苦労や異常行動に悩まされていることを語るのには、その苦痛を受け止めてくれる関係を求めていることが多い。そこに目を配って、家族の気持ちに丁寧に応えているのがこの本のユニークなところである。

秋葉哲生 (昭50) 著

「東西医学の交差点、その源流と現代における九つの診断系」丸善フナネット

村瀬 靖 (昭30)



と漢方医学の解説から説き起こし、日本の医学史を丁寧に、然も分り易く述べておられる。日本の医学史はオランダ医学に端を発し、西洋医学と漢方医学が闘い、明治になって漢方が圧倒され、西洋医学の医療開業試験法が公布されたという経緯がある。漢方薬が厚生省認可の健康保険薬として採用されたのは、武見健先生(昭15年卒)の指導を受けられ、1989年伝統医学研究会あきば病院を開設されて盛業中である。日本東洋医学会理事、EBN委員、会委員長等も立派に務められ、江戸川区医師会東医研卒後研修会でも、分り易く漢方講演をされとても好評であった。漢方の医学書と言うと漢字の羅列と、古典的表現が多く、初心者には馴染み難いのが常であるが、本書は中国医学の伝来

平成14年7月丸善から発刊された漢方の啓蒙書であるが、頁数146頁とは言え、仲々の力作である。1975年千葉大医学部を卒業され、漢方一筋、同窓の大先輩藤平健先生(昭15年卒)の指導を受けられ、1989年伝統医学研究会あきば病院を開設されて盛業中である。日本東洋医学会理事、EBN委員、会委員長等も立派に務められ、江戸川区医師会東医研卒後研修会でも、分り易く漢方講演をされとても好評であった。漢方の医学書と言うと漢字の羅列と、古典的表現が多く、初心者には馴染み難いのが常であるが、本書は中国医学の伝来

は格調の高い文章で、私の

愛読書であるが、漢文の講義を5年間も受講した昭和一桁生まれの我々とは違って、今の若い医師には漢字の羅列は荷が重く思う。本書では瘀血ちゆうけつに関して、縷々説明され、比較的理解し易いが、本書を改訂される時は、西洋医学しか知らな

大西久仁彦(昭47) 著

体にやさしい最先端医療

「切らずに治す肝ガン」

現代書林

野村 文夫(昭50)



著者の大西久仁彦先生は昭和47年の本学卒業で、長らく千葉大学第一内科において活躍された後、埼玉医大の助教を経て、平成11年に肝臓病専門の大西内科を設立された。すでに1000人を超える原発性肝細胞癌(以下肝ガン)症例の診療をみずから担当され、肝ガン治療の名医として世界的にも著名な先生である。これまでにも肝臓に関する一般向けの本を何冊か世に出されているが、本書は前作にさらに増して大西イズム

い、洋医にも理解出来るように、血流動態から考察された、Color、Pulsed、Doppler Photoもある、眼で診える瘀血解析を是非加えて戴きたい。兎に角一読の価値のある医学書として、是非推薦したい。

に満ちていてまさに入魂の書といえる。

本書は4つのセクションからなり、第一部では肝ガンの成因についてやさしく説いたのちに、早期診断のためには超音波検査が上手な医師の検査を受けることが何よりも大切であることが強調されている。習慣飲酒がウイルスによる発ガンを促進させることは、大西先生の報告(Cancer, 1982)に端を発しているが、現在盛んに行われている慢性C型肝炎に対するインターフェロン療法の治療効果にも飲酒が悪影響を及ぼすことを最初に指摘したのも先生であり、診療上重要なポイントにいち早く着目する鋭さにはあらためて脱帽す

る。

第2部では新たに考案された酢酸注入療法の開発の経緯と臨床成績が書かれている。酢酸注入療法の臨床成績、たとえば腫瘍径2cm以下の肝ガンの5年生存率が69%と高く、逆に再発率は2年後でも9%と低く、いずれにおいても他の治療法に比し、優れたデータが示されている。注目すべきは、「われわれ」の成績ではなく「わたし」の成績と述べている点であり、数百例におよぶ症例の治療をすべて自分でやっているという自負が感じられると同時に、データの説得力も一段と増してくる。酢酸を用いた場合、治療回数が少なく済み、しかも優れた治療効果を示す理由について詳しく説明されているが、再発率を低く抑えるための、穿刺針を抜去する際の工夫についても記されている。

しかし、1つの治療法に固執することなく常に新たな治療法を求め、いち早く取り入れていくのが大西先生らしいところであり、現在盛んなラジオ波焼灼療法も異なる3種類の装置を使い分けながら、開院以来すでに400例を超える患者さんに施行し、本法と酢酸注入療法を2本柱として個々の症

例にに応じて使い分け、優れた成績を出されている。

第3部は「肝ガン臨床記録」と題し、ご自身にとつてとくに印象深い症例が10例とりあげられている。大西先生は私にとって第1内科だけでなく、留学先の先輩としてお世話になり、また帰国後も第1内科の肝臓研究室でご指導いただき、

20年近く苦業を共にしてきた。その後、互いの方向が違ってしまったので、折りにお会いしているのですが、これらの症例について断片的にうかがったことはあるが、アメリカ在住の患者さんから治療依頼のファックスを受け取るとすぐに国際電話をかけたがり、民間療法にこだわらる患者さんの希望をぎりぎりまで聞いてあげようとする姿勢など、いかにも大西先生らしいエピソードにあふれている。

してくれるか。などがポイントとしてあげられている。なお、この項の最後に治療成績を学術雑誌に筆頭著者として発表しているかどうか、医師選定の参考になると記されている。大西先生は酢酸注入療法をはじめと

して、ご自身の治療成績を海外の一流雑誌に多数発表されてきた(Hepatology, 1996, 1999など)が、最近は全国から集まる多数の患者さんの治療に専念されている。しかし、スーパー・スターであっても、1人の人間にできることには限りがあり、先生の技術・医療にたいする姿勢を後進に伝授しつつ、今後もすぐれた論文を世に出し続けていただきたいと願っている。

第4部では大西先生流の医師選び・病院選びのポイントがまとめられている。(1)肝ガンを早期に発見できる検査、とくに超音波検査が正確に行われているか。(2)患者さんに詳しく説明し、質問にも丁寧に答え、セカンドオピニオンにも応じてくれるか。(3)治療法の選択肢、自分自身の症例数・治療成績についてきちんと話

本書は肝臓病の患者さんはもちろんのこと、臨床家にとつても「目からうろこ」

日本東洋医学会 EBM 委員会編

「2002年中間報告 漢方治療のEBM」

秋葉 哲生(昭50)



本書は、日本東洋医学会(日本医学会加盟学会)のEBM委員会(委員長、秋葉哲生)がまとめた漢方治療の根拠となる文献とその評価結果一覧で、2002年9月に公表されました。過去15

と感じられる箇所が随所にある、一読をおすすめする。

年間の主要な二重盲検試験結果12報、比較試験結果621報、症例収集報告200報計833報の論文から、注目される73報を分野別に収載しています。本書に目を通しますと、現代医学的な評価視点からも漢方治療のEBMがすでに確立されていることが容易に理解できるものと思えます。本書は年次を追って改訂される予定です。

人事異動

千葉大学 教授 転任

公衆衛生学 羽田 明(熊本大昭53)

耳鼻咽喉科学 (旭川医大教授より)

岡本 美孝(秋田大昭54)

助教授 昇任

小児病態学 寺井 勝(昭53)

(同講師より)

精神医学 岡田 眞一(昭59)

教育学部 養護教育 野村 純

(環境衛生生化学助手より)

講師 昇任

放射線腫瘍学 川田 哲也

頭頸部腫瘍学 花澤 豊行(平元)

(同助手より)

放射線科 内田 佳孝(昭63)

耳鼻咽喉科 仲野 公一(昭63)

(耳鼻咽喉科学助手より)

精神科 神経科 小松 尚也(昭63)

(精神医学助手より)

集中治療部 中西加寿也(昭61)

(同助手より)

ク ラ ス 会

白兔会 (昭17窓)

昭和17年9月卒業の我がクラス(白兔会)は、本年は丁度卒業60周年の記念の年を迎えたわけだが、特に記念行事は行わなかった。

実は5年前の平成9年10月26日に、千葉市のホテルサンガーデンで卒業55周年記念のクラス会を開催し、同時に卒業55周年記念のクラス誌「白兔」第7号を発行し、この年を以て白兔会としてのすべての行事を終了することにしたのである。以後有志のみで春、秋2回の懇親会を開催してきた。そこで今回も有志のみで去る11月10日(日)に、東京駅構内の「精養軒」で懇親会を開催した。寄る年波で出席者は益々少なくな

り、窪田静夫、藤村満寿夫、本間哲雄、水間正



冬の4人のみであったが、故人の奥様方が5人(浦部秀子、木村照子、橋爪文子、三浦碧子、村上レイ子の皆様方)が出席して下さったので、いつものようになごやかな楽しい歓談の一時を過ごすことができた。

顧みると、この5年間に三浦寛、内田成和、梅澤勉、稲村満、中島尚、村松大三郎、高橋和夫、松永幹の諸君が相次いで他界されたので、現在は31名になってしまった。今回、近況報告をまとめてみたところ、まだ診療をつづけている者は12人(うち自宅診療は5人、

勤務医は7人)、閉院したり勤務はやめたが健康で余生を送っている者は7人、体調思わしくなく療養中の者は7人で、音信不通の者が5人という状況になっている。

次第に寂しくなってきたいるが、今後も春、秋2回の有志による懇親会は続けてゆくことにしている。

写真は、前列左から浦部橋爪、村上、三浦、木村、後列左から窪田、藤村、本間、水間。(水間正冬)

二二二会 (昭22窓)

今年度の二二二会は10月12日、新宿プラザホテルで行われた。出席者は級友14名、同伴者3名、未亡人3名の計20名であった。欠席者の返信によると足腰が弱くなり難渋しているという近況が多かった。長く二二二会の世話をしてくれていた石橋文太君も病臥中で欠席、茂又君と有益夫人から病状の説明があった。80に近づいた級友のスピーチからは夫々味わいの深い人生観が吐露された。話はずきなかつたが時も過ぎ、また会う機会をもつことを約し散会することとなった。

出席者
家本誠一、石郷岡寛、石

橋祝、一井正、沖真澄夫妻、笠川猛、加藤周、神田勝夫、貫洞一夫夫妻、清水健三、新田実男夫妻、茂又真祐、若月美博、鷺田一博、有益安子、内藤恒子、中川雅子
(新田実男)

卒後半世紀を越え四年、嘗て軍国主義に身心をさらし、空襲にさいなまれ、空腹に耐えて、人の命と心を護る天職に努力してきた我

が「もぐら会」は、9月21日、東京駅ステーションホテルで行われた。集いし者24名、まず存在の証を写真に残し、会場に入り席に着く。(幹事、柴田鉄郎、宮崎隆次両君)

開会に先だち、前年度逝去の堀江昌平、村田晴源、太田茂男三君の面影を臉に浮かべつつ冥福を祈って黙祷。

乾杯は吉田亮君、来会者一同、病欠者の回復と来年の再会を約して杯をあげた。

暫しの歓談の後、既に喜寿をこえし面々、別して一言あるべし、とて交々立ち、越し方、現在、行く末につき、想う処を述べた。

大学医局、病院勤務、非常勤医師などを経て、介護施設で己より更なる老人の話を聴き、励ますあり。或は医療の一切から身を引き、後悔なく安心立命の日々を樂しむあり。一日を持って余し、今から何を為すべきか考慮中もあつた。今尚現役で診療を続けつつ地元校の

校医に続き評議委員長に推されるあり、臨床の傍ら健康管理をも指導し、食物は良く噛むべしと、カムカム教主となるあり、釣に明け暮れ魚拓の名人になる、もあつた。

我等高齢ともなれば、一病あるは当然だが、ボケ防止に自著出版、或は俳句集を出し、他を樂しませる友もいた。中には、「三、健気にも病妻の世話をしつつも、ゴルフを、ドライブを樂しむ心豊かな話も聞かれた。

「人寿幾何ぞ逝くこと朝霜の如し」(陸機)と雖も、何れの諸君も、遅しく、とは言えぬまでも、自らの余命を大事に過ごしていると思えた。医師として、一家の主としての長年の経験を踏まわりの含蓄ある人生論、哲学には感じ入った。

帰途、車窓より朧ながら十五夜の月を見つつ、この会が傘寿、米寿までも、と祈るや切である。

尚、次期幹事は岩間定夫、

奈良四郎の両君にお願いする。

出席者(前列左から)窪田満雄、有賀光、板垣修造、藤井日出男、宮崎隆次、大津饒、木村滋、大久保欽司、吉田亮、伊藤力、(後列左から)多賀谷謙、柴田鉄郎、吉田充、吉岡宏三、平岡真、中島博徳、小澁智哉、吉田作、岩間定夫、伊東和人、前田裕奈良四郎、上野高次。他に萩原彌四郎。
(伊東和人)

が「もぐら会」は、9月21日、東京駅ステーションホテルで行われた。集いし者24名、まず存在の証を写真に残し、会場に入り席に着く。(幹事、柴田鉄郎、宮崎隆次両君)

開会に先だち、前年度逝去の堀江昌平、村田晴源、太田茂男三君の面影を臉に浮かべつつ冥福を祈って黙祷。

乾杯は吉田亮君、来会者一同、病欠者の回復と来年の再会を約して杯をあげた。

暫しの歓談の後、既に喜寿をこえし面々、別して一言あるべし、とて交々立ち、越し方、現在、行く末につき、想う処を述べた。

大学医局、病院勤務、非常勤医師などを経て、介護施設で己より更なる老人の話を聴き、励ますあり。或は医療の一切から身を引き、後悔なく安心立命の日々を樂しむあり。一日を持って余し、今から何を為すべきか考慮中もあつた。今尚現役で診療を続けつつ地元校の



五五会

(昭30)

1955年卒(昭30)より名付けられた「五五会」はその名より卒業後何年経ったかが一目して分かる。卒業47年の今年の五五会は平成14年9月28日(土)埼玉県在住者が幹事で川越プリンスホテルで開催された。

先ず総会が3Fカトリックルームで幹事新井多喜男君司会のもと開かれ、幹事代表高橋康の歓迎の挨拶、永野俊雄五五会長の挨拶、物



故者黙禱、別室で全員の写真撮影。

続いて幹事の横田俊二君に司会が交代、先ず四国宇和島から来た遠来の友、山野君の乾杯の音頭でいよいよ開宴。シェフ自慢の旨いフランス料理を賞味しながら、各人の近況報告を聞き楽しい歓談のひとつを過ぎた。遅れて参加した幹事の伊藤敏夫君より翌日の小江戸観光についての詳しい説明あり。宴会終了後別室に設けられた二次会に移り、カラオケに興じ更に盛り上がった。

翌29日(日)は小江戸観光、台風接近で案じられた天気も晴れ上がり、ホテル前よりマイクバスに乗りガイドの説明で歴史と文化の川越の街並みを見学した。コースは喜多院↓五百羅漢↓本丸御殿↓川越市立博物館↓時の鐘↓菓子屋横町↓いも膳(昼食)↓川越駅。三々五々の散策は高齢者にとって丁度良い運動になった。来年又元気で再会することを約して解散。

今回の出席者は会員23名、令夫人、他3名、計26名参加。

出席者 浅利行男、新井多喜男、伊藤敏夫、岩井忠志、石神一郎、加濃正明、上牧順三、小林富久、清水良平、志村昭光、高橋康(同伴)、滝口光雄、十束支朗、中野政雄、永野俊雄、平山皓、藤山嘉信、村瀬靖(同伴)、望月良夫、山野徳雄、山本輝通、横田俊二(同伴)、吉原一郎
翌日の小江戸観光参加者は19名。
来年は八王子市野本君の幹事で開催と決定した。(高橋 康)

みふみ会

(昭32)

平成14年度の「みふみ会」は平成14年10月12日土曜日の午後6時から千葉市内の「はるのや」にて開催された。当日欠席者が2名ほどでたので26名の出席のもとおこなわれた。会にさきだつて夏目君に記念写真の撮影を行っていた。幹事平嶋の司会で始まり、まず会長高橋君の挨拶では、最近における大学改革に伴う医学部各講座、病院内施設等の名称が新しくなったことをご説明いただいた。



また昨今の教授選挙の基準の改革などについても御紹介があった。幹事より引きつづき、今回の出席状況と出席できなかった方の近況を葉書でみてほしい旨説明があつて、さらに本年の慶事として中村仁君が春の叙勲で勲五等双光旭日章を受賞され、内田君が日本医師会から日医最高優功賞を受賞された旨、紹介があつた。

時間があつたので、さらに近況を他のかたに話していただき、時間まで盛会にすこした。終にちかく幹事小泉君の司会で、次回の幹事として東京方面の柏木君、高倉君さらに福田君が推薦され承認された。福田君から次回のことなど挨拶があり会を終了した。

なお、当日の出席者(敬称略)は以下のごとくである。
内田威郎、柏木登、蟹沢晴子、川口幸夫、川島裕、

さんろく会

(昭36)

小泉博人、佐々木邦幸、三枝一雄、高倉永政、高橋英世、水流英雄、戸川清、中村常太郎、夏目隆一、西村弥彦、西村忠雄、野口照義、野本昌三、平嶋毅、福田陽、藤田真、藤本茂、牧野耕治、村上和、横尾敦夫、吉田豊(平嶋 毅)

で、その様変わり感慨ひとしおのものであつた。集った仲間のうちで未だ現役バリバリで学会などで活躍されている方もいるが、多くは一応第2の人生を歩みだしており、といつても毎日が日曜日のかたは一人もおらず、何らかの形でこれまで培ってきた仕事を生かしており頼もしいかぎりであつた。が、談笑のなかで、会の案内状の返信に自分の名前を書き忘れたり、孫のこと、生活習慣病の話にはこと欠かず、寄る年波は認めざるをえないが、みんな元気であり、来年は小



越君のお世話で高知(日時まで決めて)での再会を誓い、明日の久しぶりのクラスメイトどうしのゴルフを楽しむに、時を忘れて談笑が続いた。

出席者(○印夫人同伴)

- 青木謹、網代洪、石原運雄、大川治夫、小倉敬一、○小越章平、小野沢君夫、小幡五郎、国安芳夫、黒田健昭、近藤省三、末吉完爾、鈴木光、諏訪部博、関幸雄、副島訓子、谷谷明、谷口滋、塚原重雄、中川康次、中島伸之、中田義隆、長谷川幸子、福山悦男、藤塚立夫、○洲上隆、松下嘉一、松本一暁、松本生、○前嶋清、三宅伊予子、横山健郎、吉井逸郎、吉野朋昭

鳴門で還暦クラス会 (昭41巻)

昭和41年卒の同窓会のご報告です。忙しさに取り紛れて一年以上が過ぎてしまいました。申し訳れございません。

平成13年3月17日土曜日徳島県鳴門市で一泊の、還暦を祝うクラス会です。初日は私幹事の『雨男』の名にし負いて土砂降りの雨でした。明石海峡大橋鳴門海峡大橋と渡って来た連中は、着いた早々、楽しみにして

いた景色は何も見えなかつたと怒っていました。夜は鳴門の鯛の活き造りと阿波のびちびちギヤルとの阿波踊り。某君の話では四国の様な過疎地では女は婆あばかりで、びちびちギヤルなど居るもんかということになっていったそうですが、ご覧の写真の様に女の踊りはみんな高校生で初々しいギヤルでしたよ。参加人数は私を含めて15人。とにかく積る話が先で鯛の活き造りなど眼中にないようでした。夢中になって喋って飲んで



富美子 翌日は打って変わってからりとした日本晴れ。名勝鳴門海峡を見学、大橋を背にして記念撮影。しかし渦潮はあいにくの小潮で渦はあるかないかのものでした。そのあと大塚国際美術館を見学。そこは名のある西洋画を陶板に原寸どおり複製して、古代から現代まで、壁画などは部屋そのものをそっくり展示してあるところ。とても一日では見切れません。見終わつた時の感想はと聞くといふことでした。 久し振りに旧交を暖めたクラス会です。

30年など瞬く間でした。41年入学・47年卒業に因んだ四一七会は平成14年9月14日(土)に卒後30年目のクラス会を催しました。卒後初めて会う仲間もいました。話せば全く昔のまま。活躍の場が違うとはいえ、時代を共有してきたというの何とも強い絆です。場所は卒後10年目のクラス会

四一七会 (昭47巻)

- 参加者 天羽達郎、飯田龍一、市川清子、小林伸行、里村洋一、島田哲夫、鈴木豊、鈴木弓、高橋淳一、中川利男、中村宣生、那須武、丸山雅一、茂木富美子、渡辺寛 (天羽達郎)



酔うほどに 少女に見える年増顔 三十五年の春や昔の

を行った京成ホテル。このホテルはクラス会の1週間前に新装オープンしたばかりで、名前も京成ホテル・ミラマールとなりました。参加者は総勢38名と予定より若干少な目でした。司会は麻酔科の西野卓君。卒後初めて参加した本邦家庭医療の先駆者・樗戸健次郎君(北海道)が乾杯の音頭をとり開宴。医学部の現況を寄生虫学の矢野明彦君、附属病院の現況を西野君、西千葉キャンパスの状況を保健管理センターの長尾が報告しました。



その後、各参加者の近況報告、記念撮影と型のごとく進行しました。しかし、座がばらけてきたからが本番であちこちで大きな笑い声。二次会は20人を超える数で近くのクラブになだれ込み最後はラーメン屋へ。健康管理などこ吹く風といった風情でした。しかし、皆、自分たちの居場所をあらためて確認できたのではないのでしょうか。

次回(5年後)は、誰も欠けることなくお互いの還暦を祝い合う会にしようと思っております。 参加者 相川英男、浅野誠、旭俊臣、伊藤文憲、稲葉憲之、猪俣弘明、内田邦明、大崎逸郎、大塚薫、

北陸の同窓会が平成14年9月27日(金)富山市内の奥田屋で開催されました。今回は和漢診療学教授の寺沢捷年先生(昭45)が富山医科大学の副学長、附属病院長に御就任され、そのお祝いを兼ねて行なわれました。先生は以前医学部長の重責にあり、今回また要職につかれ会員一同にとり大変おめでたいことと思っております。会は、まず片山喬名誉教授(昭30)よりの乾杯の御発声が始まりました。辻陽雄名誉教授

各地の同窓会 だより 大西久仁彦、加藤誠、菊池友充、小林敏男、坂本昭雄、菅野勇、鈴木明、鈴木光二、鈴木信夫、鈴木洋文、豊田敦、中嶋征男、中村勉、長尾啓一、鍋島誠也、樗戸健次郎、西川哲男、西野卓、檜垣進、広瀬彰、堀中悦男、牧野定夫、松川正明、松島保久、矢野明彦、山森秀夫、吉田象二、若山芳彦、渡辺滋 (長尾啓一)



(昭33) から御挨拶があり、ひき続き寺沢先生から総合再編、独立行政法人化など

当大学および附属病院の置かれた厳しい状況の説明およびそれに対する先生の展望、抱負などについてお話しがありました。会員一同その

の明解な説明に聞き入ることとして、今後の先生の御活躍をおおいに期待いたしました次第です。その後、各人からの近況報告があり、

片山喬 (昭30)、辻陽雄 (昭33)、磯村勝美 (昭43)、寺沢捷年 (昭45)、山田均 (昭48)、布施秀樹 (昭51)、古谷雄三 (昭61)、野沢聡志 (平2)

(布施秀樹・昭51)

中京るのはな会

平成14年7月10日、名古屋駅のセントラルタワーズの加賀屋で中京るのはな会が催されました。

折悪しく台風の接近後だったため、参加者は松井宣夫 (昭38)、三浦利重 (昭46)、山口英明 (昭50)、森田 (石井) 弘之 (昭56)、三好幸次

(昭63) の各先生方の5名でした。

名古屋市立大学整形外科の松井教授は、この4月に退官され、名古屋総合リハビリテーションセンターのセンター長に就任されました。以下各人の近況報告が行われ、その後は大学時代の話を酒の肴に楽しい時間を過ごすことができました。

中京るのはな会は愛知、岐阜、三重の千葉大学医学部関係者に声をかけ、毎年7月に会を開いています。参加者は例年10名程度で固定化し、年々高齢化が進んでいます。現在、中京るのはな会に所属されている会員の方で参加されたことのない方は、是非次回には出席されることを願っています。また東海三県に居住していながら、中京るのはな会の連絡のいかない会員の方は、森田 (社会保険中京病院) まで御連絡ください。

第27回のはな美術展開催される

参加人数がもう少し増加したら千葉大学より講師の先生をお招きし、学術的な話をさせていただこうかと考えています。

(森田弘之・昭56)



平成14年10月8日から14日まで7日間、東京、銀座のギャラリーひまわりで開催されました。出品者は16名で、今回は残念ながら、白鯨社の学生の出品はありませんでした。展示の作品は、水彩画、パステル、油

彩24点で、30号の大作も数点あり、会場では質の向上と安定感を感じると、多くの来会者が口にしておりました。12日の午後、会員一同、会場に参集して2時間近く恒例の合評をすませました。今回、長尾透先生は脳学者が見た写真絵画 (絵は脳で描く) なる論文を会員に配布してユニークな絵画論を展開され感銘をあたえました。引き続き会場を資生堂に移し、懇親の夕食を共にしました。会員の中には、既に医業を終えて、80歳を超えた方が数人おられます。先輩方の筆力にはいささかの衰えも

見受けられません。会員に昭和40年、50年代卒業の同窓が加われば、本美術展の発展は大いに期待されます。有志の方々の御参加を諭旨幹事、会員に御連絡を下さい。

幹事 石谷治彦 (昭24) 仲村長正 (昭29) 山口庚児

(昭31) 島田哲男 (昭41) 酒井忠昭 (昭42) ゐのはな美術展事務所 〒169-00075 東京都新宿区 高田馬場1-25-29 石谷医院内 ☎03-3200-0078 Fax 03-3200-0253

二〇〇二年 第27回のはな美術展出品目録

氏名	年齢	作品名	形式
山川 晋吾	F 10	サンタ小僧	F 8
斎藤 英一	F 8	風景	花 8号
大木 勲	安達太良山	8号	
長尾 透	野の花	10 F	
島田 哲男	裸婦	8号	2点
大村 光	花	12号	花 8号
柴崎 晃	乗鞍高原初秋	F 30	
石谷 治彦	花	20号	港の風景 10号
神山 英明	桂林 (中国)	の川下り	10号
斎藤 宗寿	ひまわり	8号	
酒井 忠昭	公園の水路	15 F	溪流 6 F
山口 庚児	ノートルダム・ドゥ・パリ	30 F	
吉川 広和	静物	30号	水彩
川村 孝子	楽器	20号	花 15号
野口 真理	風車	12 F	水彩
今井 力	モンテツチ水河	30 P	
仲村 長正	加瀬幸雄	井上 通	宮下久夫
不出品	榎本貴夫		辰野治郎

2002・10・8-10・14 銀座 ギャラリーひまわり 無記載は油彩 順不同

オクダレクチュアーシップ (アジア太平洋肝臓学会) の設立

名誉教授 奥田邦雄



本年9月末第13回アジア

太平洋肝臓学会が台北で盛大に開かれ、李総督が開会式に來られ、B型肝炎の多い台湾における本会の意義をほめたたえてくれた。この学会は1978年アジア太平洋地区の代表的肝臓学者が集って作った会であるが、最終的にパウエル(オーストラリア)、シア(シンガポール)と小生が会の代表者となったもので、自分が李総督にほめられているような感じであった。なおこの学会の機関誌であるJ. Gastroenterol Hepatol (JGH)を1984年に作ったのもパウエルと小生とアデレイドのシエアマンの三人で、雑誌は多くの国から編集委員が出て名実ともに国際雑誌になり、今年18年目で購読者数450人となった。母体の学会が無いので、編集委員と出版社の話し合いで利益の半分を基金にもらって

公益法人(JGH FUND)を設立、7名の理事(順大佐藤教授が会計係)で運営している。研究費、若い研究者への援助、旅費の補助、講師の招待費用等に使っている。

私は今年9月末をもって編集長を辞したが、私がJGHを創始し、編集長を長年勤めた功績をたたえて、本学会の State-of-the-Art-Lecture (特別講演) をオクダレクチュアーと呼ぶことになり、第一回のオクダレクチュアーにはシドニーのファレル教授による NASH (Nonalcoholic steatohepatitis) についての講演が選ばれた。すなわち第一回オクダレクチュアーはファレルによって行われた。私自身非常に光栄に感じた。オクダレクチュアーは私の死後も残るので嬉しいが、同時にアジア太平洋地区にネームドレクチュアーができたということに意義がある。すなわち日本の肝臓病学の研究のレベルが高いという事で、日本の学会の誇りでもある。世界消化器病学会にはポッカスレク

チュアーがあり、たまたま1998年度(ウィーンでの学会)のポッカスレクチュアーは小生が行った。欧州にはシャーロックレクチュアーがあり、今度のオクダレクチュアー

はこれらと同格である。アジア地区が遅れたのは日本肝臓学会の体質が悪く、世界のレベルに達するのに欧州に遅れをとったからである。

千葉醫學専門學校校歌

石出 猛 史(昭52)

千葉大学医学部(昭和24年5月)とその前身校である千葉医科大学(大正12年4月、昭和24年5月)には、校歌がないと思われるが、千葉医科大学の前身校である千葉医学専門学校時代(明治34年4月、大正12

年4月)には、校歌が作られている。『千葉醫學専門學校校歌』が作られたのは、大正9年(1920)のことである。但しその発案者・製作の経緯などについては不明である。作詞者の松原芳樹は、大

正5年(1916)の千葉医学専門學校卒業生である。校閲者の上田萬年(1867~1937)は、尾張藩々士上田虎之丞の長子で幼名を御太郎。明治21年東京帝国大学和文科を卒業。独仏に留学後、文部省専門学務局長・東京帝国大学文科大学々長・神宮皇学館々長・貴族院議員などを歴任した。欧州の言語学研究法を本邦に紹介し、言語学・国語学研究の基盤を築いた。多くの国語学者がその感化を受けたといわれている。

作曲者の永井建子(けんし1865-1940)は、明治から昭和初期にかけての作曲家で指揮者。陸軍々楽隊の草創

期を築いたといわれている。広島島の儒者白井紐太郎の次男として出生、後に永井家の養子となる。陸軍々楽隊試験生に採用され、軍楽隊教官シャルル・ルルーに師事。フランスに留学後陸軍々楽隊長に就任。退役後は帝國劇場洋楽部長などを勤めた。軍楽隊長の在任期間は明治39年(1906)から大正4年(1915)とあるので、『千葉醫學専門學校校歌』の作曲は、軍楽隊長を退役した後である。軍楽次長として日清戦争(1894-1895)に従軍した際には、軍歌『雪の進軍』の作詞作曲を行っている。他に『凱旋』『元寇』『露営の名簿の筆頭には、陸軍大將公爵山縣有朋の名があり、以下大山巖・乃木希典・秋山好古らよく知られた軍人が名を連ねている。陸軍中將本郷房太郎と陸軍少將石井隼太の間に、千葉醫學専門學校校長荻生録造の名がみられる。また陸軍少將の氏名に挟まれて、千葉醫學専門學校教授三輪徳寛(当時縣立千葉病院院長)の名があり、千葉縣知事告森良よりも上席に記されている。

三

一 眺めゆかしき猪鼻が丘 古城空しく松老いたれど
高きほまれは我等が母校 醫藥の福府と夙くはやされて
互に誇る學びの友よ 我等が任務はいや高し

二 盛者の夢もごく覚めぬれば 名残の光その影うすし
生の流れのよごめるときは 人妻情の恨ぞ深き
いで仁愛の我等が手にて 世の禍をすくはなん
匂ふ若草色新しき 生命に萌ゆる丘の上の春
我等が胸にまごころこもり 我等が腕に力みちたり
見よ人類と國家の期待は 我等が未來の上に在り

文豪博士 上田 萬年 校閲
松原 芳樹 作歌
陸軍一等藥長 永井 建子 作曲



千葉醫學専門學校校長は、高等官として陸軍少將閣下よりも上席であり、当時千葉県下の文官々僚として一番偉かったのである。本稿の要旨は、『千葉医学』(2003年79巻第1号)でも紹介した。

同窓会館の現況

千葉大学医学部学生自治会
同窓会館整備委員長 3年 飯沼智久

新年あけましておめでとうございませう。初めまして。私は学生自治会で同窓会館に関わる仕事をさせていただいている、3年次の飯沼と申します。今回は、同窓会会報の紙面をお借りして、同窓会館の現状についてお伝えいたします。

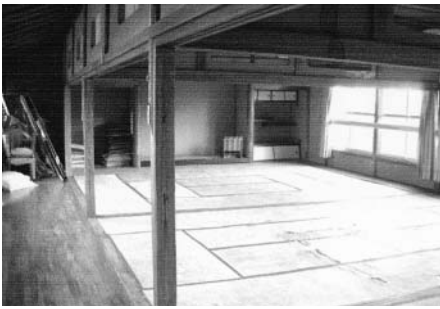


写真1 同窓会館2階 大広間 畳はボロボロです。



写真2 同窓会館2階 渡り廊下。右側トイレは使用できず、戸は無くなり、風呂敷で仕切られている。床には穴があき、ガムテープで補修している。

同窓会館は昭和に建設され、学生時代や先生になられてからも利用され、思い出をお持ちの諸先輩方もいらっしゃるのではないのでしょうか。建物は二階建てで、一階は亥鼻奨学会の事務所と台所・食堂、二階は大広間と6畳の和室が二つ、台所があります。また、トイレは一階と二階にあります。

私たち学生自治会では、「同窓会館は学生、職員の重要な福利厚生施設であり、改修していただきたい」と繰り返し大学側に伝えてきました。大学側も同窓会館の必要性は理解しながらも、予算上の問題もあり、改修の方針は示されず問題は先送りされています。また、取り壊しの話も持ち上がっています。

平成14年度第2回常任理事会議事録

日時 平成14年11月27日(木)
15時30分～17時50分
場所 千葉スカイウインド
ウズ東天紅・天海の間
(センチタワー22階)

出席者 秋葉哲生、大井利夫、大藤正雄、大浜博利、沖真澄、小幡裕、神田収、木内政寛、香田真一、近藤洋一郎、税所宏光、三枝一雄、佐藤甫夫、白澤浩、鈴木信夫、滝口正樹、富田裕、長澤仁一、道永麻里、村瀬靖、矢野明彦、吉川広和、渡辺武

開会に先立ち、長澤会長より御挨拶があった。

議 題
一、叙勲者・昇任者の四金会招待について
滝口理事より説明があり承認された。
二、学外研究助成選考結果

木内理事より選考結果の説明があり、6件の採用案が承認された。

三、給与規定について
税所理事より、同窓会職員の給与規定の制定について説明があり、審議決定された。

報告事項
一、予算執行状況(中間報告)について
税所理事より、平成14年度予算執行状況、決算予測について報告があった。

二、名簿発行について
滝口理事より既刊の経緯、収支予測について報告があった。
三、同窓会報関係
白澤理事より、同窓会報の発行予定について報

告があった。
四、千葉大学校友会について
近藤副会長より、平成14年10月4日に開催された全学校校友会について報告があった。

五、同窓会活性化について
木内理事、鈴木理事よりの将来検討委員会に関する報告に基づき、学生会員の導入、福利厚生施設の充実、市民大学、あ

四金会
引き続き同所で四金会が行われた。白澤理事の司会で、長澤会長の御挨拶、渡辺副会長の乾杯御発声に始まり、和やかに歓談の時を過ごした。叙勲のお祝いでも招待の久我哲郎先生、中

村仁先生、教授就任の岡本美孝先生からの御挨拶に続き、助教、講師に昇任された先生方の御紹介があった。学生諸君の参加もあり、賑やかな会であった。近藤副会長の御挨拶で散会となった。

52会々告
2003年度52会総会を平成15年9月14日(日)もしくは10月13日(日)に、開催することに決定しました。近日中に開催日及び開催地を決定し、通知します。

いづれも翌日は休日になるので、日程の調節をお願いします。
52会幹事会
(代表幹事 古川斎)

四金会開催日のお知らせ

平成15年2月26日(水)
平成15年4月23日(水)
いずれも午後5時より、千葉スカイウインドウズ東天紅(千葉駅前をこぎ西隣りセンチタワー22階)において開催致します。同窓会員の方々の出席をお願い致します。
会費は三〇〇〇円です。

会員名簿(2003)訂正
P20、289 中山俊憲
出身大学 山口大 昭59
P48 栗山弾次郎
P52 鈴木俊司
P64 黒木利助
P117 栗原 稔
出身校 医進
P272 加来博志
P289 実川徳雄
P296 並木 浩
千葉市稲毛区稲毛東 4-2-20
二行目 並木 浩 削除
P357 清野 進 (M3)
索引 P371へ

連絡先 千葉大学あのはな同窓会
電話 043-202-3750

第78回千葉医学会学術大会 (第39回日医生涯教育講座)

日時：平成15年2月8日(土) 14時30分～
場所：千葉大学医学部附属病院 3階 第1講堂
学術大会 会長 福田 康一郎 副会長 千葉 胤道

特別講演 消化管二重造影法の開発から、早期胃癌診断実践の道のり

演者：市川 平三郎 (国立がんセンター中央病院 名誉院長)
司会：大藤 正雄 (千葉大学 名誉教授)



市川平三郎先生

招待講演 診断学の進歩からみた消化器がん検診システムの諸問題

演者：丸山 雅一 (財団法人早期胃癌検診協会 理事長)
司会：税所 宏光 (千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科学 教授)



丸山 雅一先生

参加費：無料
多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。
問い合わせ：千葉医学会 TEL: 043-202-3755 FAX: 043-202-3755
e-mail: igakukai@med.m.chiba-u.ac.jp / URL: http://www.c-med.org/

エッセー 米と鮭

望月良夫(昭30)

味覚の秋がくると、楽しみの一つに新米の到来がある。

学友や親類が新潟県に住んでいて、自慢のコシヒカリを送ってくれる。西蒲原産、魚沼産、北蒲原産など数箇所から届く。これは、私が沼津に住んでからのことだから37年になる。

近年、魚沼産コシヒカリが有名になり、米屋やスーパーでたやすく入手できるが、流通ルートにのった魚沼産コシヒカリは、ホンモノの混入率が低いかニセモノだ。原産地で収穫される量は限られているのに、何倍もの量が市場にまわっているのだからインチキは明らかである。牛肉のラベル問題でマスコミがさわいでいるが、いずれ米に及ぶだろう。

絶品のコシヒカリを堅めに炊けば、ふっくらと艶があり、一粒ひとつぶが凜と立っているがらほどよいねばりがある。箸で一塊を類ばって噛み締めると弾力があり、後味も私の好みにピッタリ合う。

太平洋戦争の前まで、新潟米は、特等・二等・三等・等外と区別して出荷されていたことを知る人は少ないだろう。

米から鮭に話かわる。戦前までぜいたく品だった鮭は、獲れすぎがわざわざいして、いまは、幕の内弁当に入るほどのふつう食品となった。ピンからキリまであるうちの最高品を紹介したい。

鮭は寒海魚で、孵化して河をくだり海に出る。何年か回遊して帰るが、なぜ河口に戻れるのかメカニズムは現代の科学をもってしてもわからない。しかも、河口から孵化した処まで、餌も食わず泳ぎに泳ぐエネルギー、適量の体脂肪をもっているから不思議だ。

鮭の遡上する最長の河は北米のユーコン河で、3,800キロメートルと日本列島より長い。ちなみに新潟県村上市の三面川は短く、約30キロである。

「アブラがのった魚は旨い」の常識どおり、鮭のピンはユーコン河産というわけだ。毎年梅雨のころ、河口で獲れた鮭は冷凍され、新潟市・海産物商「加島屋」の加工場に直送される。新潟郊外の亀田工業団地にある工場の敷地内の150坪のクリーンルームで、鮭茶漬け、焼漬、鮭のトマト煮、めふん(臍臓)、ちゅう(胃袋)などに加工される。新潟市中心街にある本社ビル(あき)の売店には、主・加島屋長作さんの食品哲学に添ってつくられた食料品が並び、鮭に限らず、海産物の瓶詰、惣菜、地魚、魚卵、粕漬、味噌漬。また、農産物もある。

ホンモノの味を追及する加島さんは魚沼産コシヒカリを販売する契約ルートをつくって、十数年前であったろうか、カタログに載せた。

コシヒカリのニセモノ経験者が試して見ようかと注文し、まったく違うあまりの旨さに驚き、評判となり、商品が不足した。

こういう場合、経営者の考え方は二つに分かれる。品質の劣るコシヒカリを加えるとか、同品質を扱う他社に働きかけてまわしてもらう。もう一つは、宣伝をやめて一定量しか売らない。モチロン、加島さんは後者を選んだ。

毎秋、私のところに数か所からとどけられる新潟産コシヒカリの出来具合にリンクをつけている。

トップの座をゆずらないのは、旧制高校の級友で西蒲原郡巻町で内科を開業している長沼和男君からの新米、送られてくるとすぐ冷蔵庫に入れ、チビチビ出して一年間もたせる。

米は年によって出来がちがう。旨さに二番手、三番手と等級をつけるなら、加島屋ルートの魚沼産コシヒカリは三番手に落ちたことはない。

は多くないから、秋のプレゼントで一年をまかない、足りなくなれば加島屋である。

編集後記

ゐのほな同窓会も会員の皆様のお陰でここまで発展してまいりましたが、大きく変わりつつある周囲の変化に常に対応しつつ発展していく必要があると思います。

昨年、同窓会の改革案を練るための将来検討委員会が発足し、ゐのほな同窓会の将来像を模索中です。現在、ご協力頂ける会員にインタビューによるアンケート調査を行っており、その結果を踏まえた将来像作りを行っていく予定です。

編集部では会員の皆様の同窓会に対するご意見をお待ちしております。投稿制限は特に設けておりませんが、編集部宛に奮ってご寄稿下さい。

(白澤 浩 昭57)

同窓会名簿(二〇〇三年版)が発行されました。価格は送料込みで3,000円です。ご希望の方は同窓会事務局にお申し込み下さい。